



大学生のクリティカルリーディングを向上させる授業の開発・実践及びその評価 筆者の意図，証拠，表現に着目して

著者	藤崎 さなえ
雑誌名	東北大学大学院教育学研究科研究年報
巻	67
号	1
ページ	31-52
発行年	2018-12-27
URL	http://hdl.handle.net/10097/00124261

大学生のクリティカルリーディングを向上させる授業の 開発・実践及びその評価

—筆者の意図, 証拠, 表現に着目して—

藤 崎 さなえ*

本研究は, 大学生のクリティカルリーディングを向上させるため英字新聞を活用した授業開発と, その実践及びその評価について論じるものである。これまでの研究では, 3つの新聞記事の論旨が明確であり各紙の対立点がはっきり読み取れる記事について論じてきた。しかし, 今回は同じトピックでありながら各紙が異なる fact を取り上げている記事の為, 視点が違う3つの記事を読み, 学生がその明確でない論旨から各紙の視点の違いと主張の違いを読み取れるか, について論じる。

学生がどの程度クリティカルリーディングのスキルが身についたかを評価する方法として二つの調査方法を用い, 一つは調査群の全学生に前期授業15回目に自由記述式で書いてもらったものの分析結果であり, もう一つは前期授業終了後の希望者13人に反構成式のインタビューに答えてもらった結果である。これらの結果から, 受講生のクリティカルに読み込む意識と態度が向上したことがわかった。

キーワード: クリティカルリーディング, 英語教育, 読解力, メディアリタラシー, クリティカルシンキング

1. 研究の目的

本研究は, 大学生のクリティカルリーディング力を向上させるために開発した教授方法¹を実践し, 前期授業15回目に行った全受講生の自由記述と, 前期終了後希望者13名に行ったインタビュー結果から, どの程度クリティカルリーディング力が定着したのかを評価することを目的としている。この教授法は, クリティカルリーディング力を向上させるために筆者の意図や目的, 使用している証拠や表現に着目して文章を読ませるため開発したものである。これにより受講生は, 英文を読解するプロセスに着目することを学習し, クリティカルリーディング力が深まる読解のメカニズムを習得する。

これまでの研究では, 3つの新聞の論旨が明確であった為に各紙の対立点がはっきり読み取れたオスプレイの地震災害時への利用についての記事²と, 共謀罪法案が可決した日の翌日の記事³を読み比べた。しかし今回の研究では, 同じトピックでありながら異なる新聞記事の主張があることを

*教育学研究科 博士課程後期

理解するために、異なる fact⁴を選択した英文記事を取り上げたため、各紙の論旨の違いが明確ではない。故に、前回よりもっと深く論旨を読み込む必要がある。2紙の記事がセクハラに遭った女性被害者達と日本社会に焦点をあて記事を書いているのに対して、残りの1紙は日本政府という違うところに視点を当てている事を学生が気付けるかどうか、これまでと違う点である。言い換えれば、同じトピックでもどの部分の fact を取り上げているのかによって、それぞれの記事の論旨が異なっていることを読み取ることが、これまでの研究と異なる点である。

2. 方法

調査群である筆者の担当授業は、同じトピックに関する記事を、複数の異なる fact に焦点をあてて記述した3つの新聞会社に掲載された英字新聞の記事を教材として使用し、記事のタイトル、著者の立場や意図、目的に着目しながら読解を進めていく。

読解終了後、調査群を受講した全学生に前期授業の最終回に自由記述方式で「Q1: 前期の授業で印象に残っていること」と「Q2: これまで受けた中学高校大学の英語授業と、この英語クラスの授業の相違点と類似点について」の2点に回答してもらった。その後、前期終了後13人の希望者に反構成式のインタビューに答えてもらい、読解の授業で印象に残っている点についての12の質問に回答してもらった。

この二つの評価方法の結果、調査群の学生がどの程度英文の内容を批判的・多面的に読むようになったかについて調査した。

3. 教材

調査群に使用した教材は、立場の違う3つのメディア (The Asahi Shimbun, BBC News, The Japan News) によって書かれた日本のセクハラに関する記事である。それぞれ2018年3月1日、4月25日、6月13日付で書かれている。

これらの新聞は、それぞれの視点の当て方の違いが明確であり、著者の主張や立場 (英文読解における「背景となる知識」) の有無が、学生の英文読解に大きく影響すると考えたからである。また短めの文章で事件についての報道とそれに対する解説や評価を書かねばならない新聞記事は、長い論説文や評論文とは異なり、文章構成のバリエーションが限られてくるため、学生が容易にその構成やメカニズムを理解できると考えたからである。

4. 本研究の対象者

筆者が担当する二つの私立大学の1・2年生の合計6クラスの学生の合計148人が調査群である。それぞれのクラスの英文読解のレベルもほぼ同じ程度と考えられる。A大学の学部は複数の学部の学生から構成され、B大学は一つの学部の学生のみで構成されている。両大学とも調査群には英語専攻の学生はいない。

調査群: A 大学 4クラス 84名 B 大学2クラス64名

受講生は大学卒業までにレポート、卒業論文作成のためクリティカルリーディングスキルが必要であるし、無論、社会に出てからも本、SNSを含むネットの情報、TVなど様々なメディアから発信される情報を取捨選択するスキルが求められるので、学部生の早いうちに批判的・多面的に読み解く力を培うべきであろう。

5. 授業方法

筆者が担当した2つの大学での6つのクラスは、一般英語コミュニケーションの枠組みの中での授業内容であり Reading だけに特化したクラスではないため、前期授業回数15回のうち、第7、8、9、10回目を読解の授業とした。第7、8回目の授業では、アメリカの中学生向けの「fact/opinion」の違いを区別することができるようになることを目的としたワークシートを使用した⁵。(資料1参照)

第9、10回の授業では、3つの英字新聞を使った「タイトルに使われたキーワード」「筆者の主張とそれをサポートする文」「記事の論調」に注視したチェックリストを先行させてから和訳を行わせた。

【表1】全体指導計画(読解の授業部分)

授業回	各 Activity	目的	所要時間の目安
7回目	Identifying Fact and Opinion Worksheet ①	1. 事実 / 意見の違いとは？ 2. 事実を見極めるために必要なことは？	90分
8回目	Identifying Fact and Opinion Worksheet ②	事実と意見を表現している例文の違いを見極める練習問題	90分
9回目	英字新聞記事① Pre-reading Activity	3つの新聞記事のタイトルに含まれる価値的な英単語への着目	20分
	英字新聞記事② -A During-reading Activity	記事本文で取り上げた筆者の主張、主張のサポート部分、全体の論調を分析	70分
10回目	英字新聞記事② -B During-reading Activity	前週のワークシート記入内容をグループ発表	80分
	英字新聞記事③ Post-reading Activity	3つの新聞のメディアの背景	10分

① Pre-reading Activity- タイトルに含まれる価値的な英単語への着目

授業では、Pre-reading Activity として、まず3つの新聞記事のタイトルに着目させた。先に述べたように、この3つの新聞にはそれぞれ異なった政治的な立場が背景にある。そのことがいわゆる日本のセクハラ問題に対して各誌の焦点の当て方に現れると考えられるからである。実際に、各誌の記事のタイトルは以下の【表2】のようになっている。

【表2】 Pre-reading Activity- 取り上げた3つの新聞記事のタイトル

	The Asahi Shimbun (The Associated Press) ⁶	BBC News ⁷	The Japan News (Jiji Press) ⁸
記事の タイトルの	In patriarchal Japan, saying 'Me Too' can be risky for women (男性優位社会の日本では女性にとって 'Me Too' ということはリスクになり得る：筆者和訳)	#Me Too Japan: What happened when women broke their silence (#Me Too Japan: 女性たちが静寂を破った時、何が起きたのか：筆者和訳)	Officials to get training on harassment prevention (官僚がハラスメント防止のトレーニングを受ける：筆者和訳)

(各新聞の見出しより筆者作成)

まず, “The Asahi Shimbun”であるが, このタイトルは「In patriarchal Japan, saying 'Me Too' can be risky for women」(男性優位社会の日本では女性にとって 'Me Too' と声をあげることはリスクになり得る：筆者和訳)である。本授業では, このタイトルの中で価値的な評価を示している英単語に着目させているが, この記事のタイトルの場合 “patriarchal Japan, risky for women (男性優位社会の日本, 女性にとってリスクになり得る：筆者訳)”である。これから “The Asahi Shimbun” は, 日本社会は男性優位社会であり, セクハラ被害に遭った女性が「私もセクハラ被害に遭った」と声をあげることはリスクを伴うという点を明らかにし, 日本社会とその社会で暮らすセクハラ被害者女性達に視点を当てているのが分かる。

つぎに “BBC News”であるが, このタイトルは「#Me Too Japan: What happened when women broke their silence (#Me Too Japan: 女性たちが静寂を破った時何が起きたのか：筆者和訳)」となっている。この記事のタイトルの場合, 価値的な評価を示す語は “when women broke their silence (女性が静寂を破った時：発表者訳)” がそれにあたる。このことから “BBC News” も, 日本のセクハラ問題に対して被害者の女性達に焦点を当てているのがわかる。

最後に, “The Japan News”であるが, このタイトルは「Officials to get training on harassment prevention (官僚がハラスメント防止のトレーニングを受ける：筆者和訳)」となっている。この記事のタイトルの場合, 価値的な評価を示す語は “Official (官僚)” と “harassment prevention (ハラスメント防止)” がそれにあたる。“The Japan News” は, あえてセクハラという表現を用いず「ハラスメント」と言う表現でセクハラ被害をばかし, 被害者女性でもなく日本社会でもなく, 「官僚が」という表現を使うことによって, 役人が必要なハラスメント防止のトレーニングを受けることになったことを強調していることが分かる。

このように受講者は, まずタイトルに含まれる価値的な立場を表すような英単語に注目し, その後, それぞれの記事がどのような「証拠」として採用しているかに着目することで, 記事の論調をより確実につかむことになる。言い換えれば, 調査群の学生は「タイトル」に着目することによって, その新聞記事が同じトピックに関して何を fact として焦点をあてたのか, という英文読解における「背景となる知識」を得たことになる。

② During-reading Activity- 記事本文で取り上げた筆者の主張、全体の論調を分析

Pre-reading Activity において、タイトルが記事の論調の証拠としての役割を担っていることを学習した上で、During-reading Activity としては筆者の主張と全体の論調に注視した。受講者2名でのペアワークで進め、その後グループワークを行い下の【表3】のようにまとめた。

【表3】 During-reading Activity-3つの新聞記事の筆者の主張と論調

	The Asahi Shimbun (The Associated Press)	BBC News	The Japan News (Jiji Press)
筆者の主張	“Me too”と声をあげた日本のセクハラ被害に遭った女性達は自らのリスクを取ってそうしている。	世間の評価が重大な位置を占める日本では、女性がセクハラに遭ったと声を上げることがしばしば思いとどまる事が驚きではない。アメリカ国務省による人権報告書によると、職場でのセクハラは広い範囲で広まった状態のままだ。	政府の女性社会参画小委員会は、セクハラ防止の緊急対策を火曜日に決めた。これは上級官僚がセクハラ関連の研修を受けることを含む。
主張のサポート部分	<p>椎木里佳は、クライアントとの性交を拒んだのち、ビジネス契約を失ったとツイートしたところ、嘘つきで売名行為だ、とネット上で叩かれた。</p> <p>ジャーナリストの伊藤詩織は去年記者会見を開き、検察側が著名なTVニュースで知られる加害者を起訴しなかったと言った。彼女は2015年に就職の相談をするため、その男に夕飯とお酒に招待された後、レイプされたと言っている。</p> <p># Me Too 運動は日本ではまだ盛んではない。声をあげることによって被害者達は、他の女性達からですら同情よりもむしろ批判されてしまう。</p>	<p>2, 3週間の間にセクハラ問題が起きトップの官僚が辞任し、セクハラされたと主張した女性達への大衆からの反発も起きた。</p> <p>その中でも、財務省事務次官の福田氏による女性ジャーナリストへのセクハラは比べものにならないほど大きく、しかし、それよりも関係機関の反応が興味深かった。</p> <p>「日本人はNOと言わないように教えられている。まるで人々はアンフェアな要求を断らない、とコンピューターに組み込まれているようだ。」とMe Too運動の弁護士である伊藤かずこ氏は言う。</p>	<p>この対策は財務省前事務次官を含む上級官僚らのセクハラ問題が多発した後作成された。</p> <p>この小委員会のトップである安倍晋三首相は、被害者を救済するため、セクハラ防止のためのできるだけのことをするようにと委員たちに命令した。</p> <p>このパッケージは個々の省庁が外部からのセクハラ文句を受け付ける事務所を持ち、スタッフの研修を強化することを公に知らせることを含む。国家人事局は接点を持つ部署を設けるよう命令した。</p>
記事の論調	「長い間女性が非難され続けてきた男性優位社会の日本では、多くの被害者女性が性暴力とセクハラを忘れようとしてきた。サポートと正義を求める代わりに」と上智大学政治学教授の三浦まり氏が言っている。	日本の若い女性たちは「苦難を受け止めそれに耐える、Noと言わない」という日本文化の中で、法的な保護もなく攻撃されやすい立場にいる。	財務省前事務次官のセクハラスキャンダルを受けて、政府が安倍首相のリーダーシップによりセクハラ防止対策を決めたと強調。

(各新聞の記事より作成。原文英語)

“The Asahi Shimbun”は、日本のセクハラ被害に遭った女性達に視点を当て、“Me too”と声をあげた女性達は自らのリスクを取ってそうしている、という筆者の主張である。国内の新聞社であるThe Asahi Shimbunは、日本社会を男性優位社会と表現し、被害者女性がサポートと正義を求めるのではなく、逆に多くの被害者女性が性暴力とセクハラを忘れようとしてきた、という日本社会へ極めて批判的な論調を繰り広げていた。イギリスのメディアである“BBC News”も日本のセクハラ被害女性がおかれている厳しい環境について焦点を絞り、世間の評価が重大な位置を占める日本では、女性がセクハラに遭ったと声を上げることがしばしば思いとどまるという事は驚きではない

と主張している。続く記事の論調も、日本社会で暮らす日本人を「苦難を受け止めそれに耐える、No と言わない」と表現し、セクハラ被害に対する法的な保護もない日本で、若い女性たちは攻撃されやすい立場にいる、と述べている。しかしこの2紙とは大きく対照的な視点から書かれているのが国内の新聞社の「The Japan News」に掲載された記事で、政府の女性社会参画小委員会はセクハラ防止の緊急対策を決めた、と言う主張であり、記事の論調も、安倍首相のリーダーシップによりその対策が決められたと強調している。主張のサポート部分を読んでも被害者女性達に関する文章は皆無で、上級官僚が受けることになったセクハラ対策のトレーニングに関連してのみ書かれている。このように、3つの英字新聞を読み比べると、The Asahi Shimbun と BBC NEWS は日本のセクハラ問題に関して被害者の女性側と日本社会に焦点を当てた記事であるが、The Japan News はセクハラ被害スキャンダルの後、政府側の対応に焦点をあてた点が大きく目立った。「The Japan News」のサイト上で被害者の女性側について書かれた記事を「sexual harassment」で検索したが、2018年6月17日の時点では全く見つける事ができなかった。

この During-reading Activity の最後に、英語長文の構成についてまとめた。英文記事の場合、筆者の主張は第一段落、もしくは第2段落に記述される構成になっており、その主張をサポートする詳細がその後に続くパターンであることを学習した。論調は最後の段落にわかりやすく書いてあるものもあるが、記事のスペース上、常にそうとは限らず、記事全体に散らばっている記事もあることも学習した。言い換えれば、調査群の学生は「タイトルのキーワード」「筆者の主張」「主張のサポート部分」「論調」に着目することによって、その英字記事の文章構成・メカニズムを学習することができ、英文読解における「背景となる知識」を得たことになる。

③ Post-reading Activity - メディア媒体の背景

最後に Post-reading Activity として、それでは各英字新聞の視点の差、筆者の主張・論調の差があるのは何故なのかを理解するために、各メディアの背景、特に、左、リベラル、右寄りの論調に注視して学生にインターネットで調べてもらい、その後グループ毎に発表してもらった。その結果下記の【表4】の結果となった。

【表4】 Post-reading Activity-3つの新聞の政治的背景

	The Asahi Shimbun	BBC News	The Japan News
メディア 媒体の背景	・朝日新聞の英語版 ・政府に対して批判的 ・左寄り	・特別なイデオロギーを持つ 背景は見当たらない ・中立	・読売新聞の英語版 ・右寄り

(筆者作成)

このメディアの背景を知ることによって、受講者はなぜ3つの異なるメディアによって書かれた記事が3社3様に視点の当て方、筆者の主張、論調に大きな違いが現れているのかを理解した。この「背景となる知識」が受講者の理解力を深めたと言えるであろう。

6. 調査群グループ全学生の自由記述分析結果

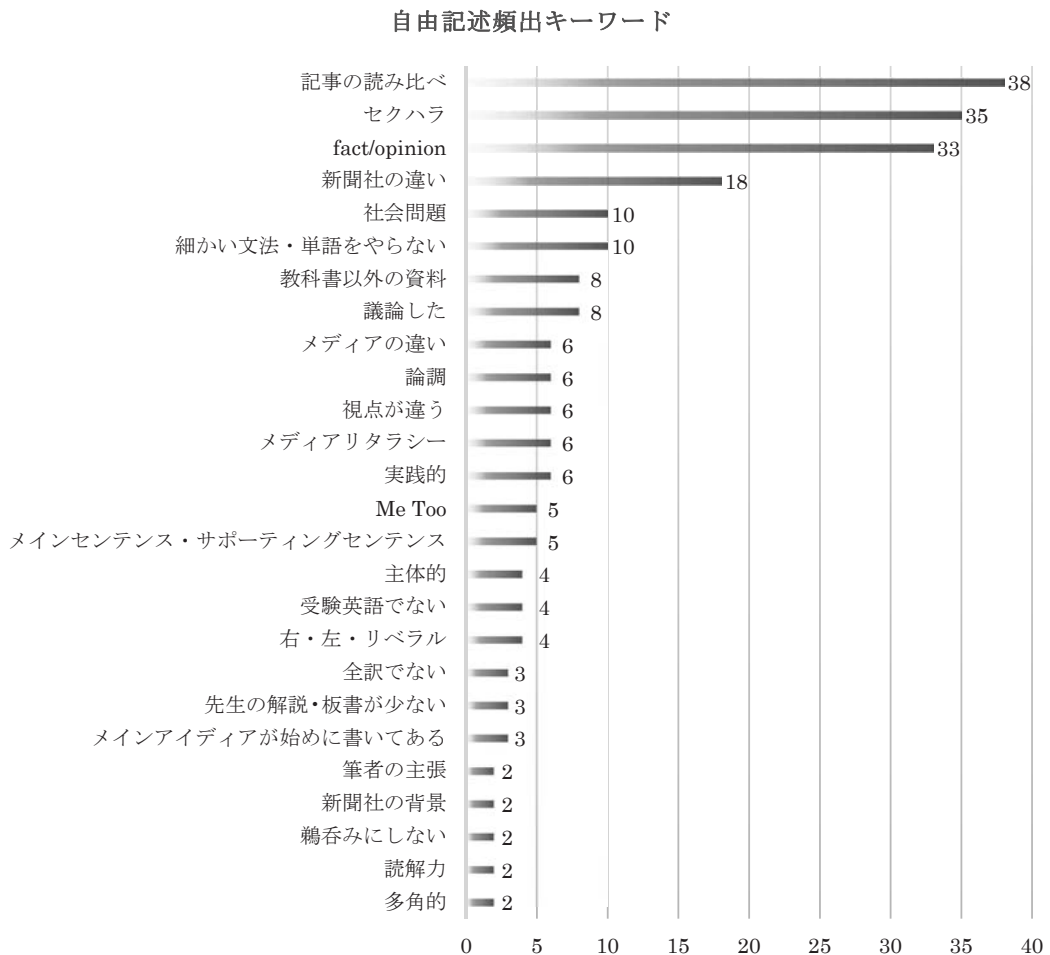
前期の授業15回目に学生に自由記述で回答してもらった質問は次の2つである。

Q1: 前期の授業で印象に残っていることを挙げてください。

Q2: 今まで中学校、高校、大学の英語の授業と、この英語クラスの授業はどのように違いましたか？

あるいは共通点はありましたか？

学生が記入した項目のトータルは596個で、そのうち Q1 の回答の中の読解に関する項目は213個で全体の35.7%であり、Q2の読解に関するこれまでの読解授業と今回の読解授業の違いは92個で15.4%である。この二つを合計すると305個で51%に上った。この51%のうち、頻出回数が多かったキーワードを下の【棒グラフ1】に並べた。



【棒グラフ1】 頻出回数が多かったキーワード

上記の各キーワードを含む学生の記述例を下の【表5】に表した。

【表5】各キーワードを含んだ学生の記述例

キーワード	学生の記述例
記事の読み比べ	新聞記事の比較で、日本で起きているセクハラに関しても多様な見方があること
セクハラ	セクハラ問題を単にテキストだけでなく、世界に目を向けて英語を学べた。他の授業よりためになった
fact/opinion	fact/opinion の違いを学習し、これからスマートフォン、news で様々な情報を元に物事の判断をするが、どれが真実の情報なのかどれが間違っているのかの区別をしっかりとできるようにするため、ためになる授業だった
新聞社の違い	3つの新聞社によってどこに焦点を置いているか、肯定、反対の立場かなど違いがわかった。もっと様々な記事を読み比べたい
社会問題	社会の見方も、海外での記事を読むことで客観的に物事を考えられるように学んだ
細かい文法・単語についてやらない	高校では文法がメインだったので、大学では自発的に動ける、取り組み力をつけられ、分かるようになったと感じる
教科書以外の資料	テキストだけをやるのではなくて、英語の力をつけるために必要なことを学べた。input/output だけでなく、現在の社会の動向を考えながらも英語を通じて学べた
議論した	考え、議論する場が多くあった
メディアの違い	メディアによる報道の違い
論調	様々な新聞の論調を読んで何を述べているのかがわかった。
視点が違う	記事によって視点が違うと読者までその視点から見がちになる
メディアリタラシー	メディアリタラシーの学習ができ、傾向を知り日常生活に活かせる授業だった
実践的	実践的な英語を多く読んで、英語学習のモチベーションが上がった。楽しい。英語の深さや面白さを感じた
Me Too	Me too 運動、英語だったので興味が持てた
メインセンテンス・サポーティングセンテンス	Main sentence/ supporting sentences の構造、役割がわかった
主体的	自ら考えて主体的に英語の授業を受けることができたことが相違点だと考える
受験英語ではない	高校では、受験英語の単語リスニング長文読解を教科書通りにやっていて、目的がわからなかった
右・左・リベラル	自分はリベラルだと思っていたが、新聞社の背景を学習後、思考にバイアスがかかっていると感じた
全訳でない	高校では全訳だけだったので、背景を考え明確に理解できて面白い
先生の解説・板書が少ない	高校までは先生の解説をノートに写すだけ。これはダメだと感じた
メインアイデアが始めに書いてある	論文の読み取り方、メインアイデアが始めに書いてあるのが日本語とは違う。日本語の論文を読むときも筆者が言いたいことに着目して読むようにする
筆者の主張	筆者の意図を知る授業はとても勉強になった
新聞社の背景	Right, left, liberal について区別したことで、視点が広がった
鵜呑みにしない	今後資料として新聞などを使うときは、そのまま鵜呑みにしないようにする
読解力	女性の人権についても学べ、やや難しい単語が入っている新聞を読むことで、単語の知識も増え、読解力も鍛えることができた
多角的	読解力に加えて現代社会の問題を多角的に考えられる内容

他の、一度だけ出てきた文言で注目したワードは「疑問を持つ」「クリティカルシンキング」「社会に出た時役に立つ」「読む目的がある」「思考力」「見方が変化した」「英字新聞で政治を学ぶ」である。

7. インタビュー結果

前期授業後、反構成式のインタビューに答えても良いと答えてくれたのは13人である。質問は合計12である。各クラスからはほぼ同じ割合になるよう回答学生の人数を調整したかったが、夏休みに入り都合のつかない学生も多かったようなので、希望者全員にお願いした。各クラスから2名ずつとなったが、クラス② A 大学2年-1だけは3名が答えてくれた。

反構成式のインタビュー質問は下の【表6】に示した。

【表6】反構成式のインタビュー質問項目

No.	質問項目
1	前期の授業の中で、readingの授業で学習した内容のうち、印象に残っていることを話してください。
2	日本での Sexual harassment に関する3つの記事を読み比べましたが、それぞれの筆者の主張はどうでしたか？（違いはありましたか？）
3	3つの記事の論調はどうでしたか？
4	3つの記事のタイトルはどうでしたか？
5	英文記事を読むときはどこから読みはじますか？
6	それぞれの段落に含まれている Main Sentence と supporting sentences の関係性について、覚えていることを話してください。
7	Media Literacy について授業を受ける前に知っていたことはありますか？
8	Media Literacy について前期の授業で学習したことを教えてください。
9	Fact or Opinion に関するワークシートの内容で、印象に残っていることを話してください。
10	今後、日本語そして英語で書かれている本、雑誌、ネット（SNSを含む）を読むとき、TV、ラジオなどの媒体を通じて情報を得る際、どのような態度でそれらの情報を受け取ろうと考えますか？
11	各記事の段落の構造について印象に残っていることを話してください。
12	今後もし、自分と意見の合わない人と話をするとき、どのような態度で話をしますか？

学生 No.1, 2は上記6の自由記述分析結果のクラス① A 大学1年、学生 No.3(社会人学生)、4, 5はクラス② A 大学2年-1、学生 No.6, 7はクラス③ A 大学2年-2、学生 No.8, 9はクラス④ A 大学2年-3、学生 No.10, 11はクラス⑤ B 大学1年、学生 No.12, 13はクラス⑥ B 大学2年に属していた。下の【表7】に13人の質問別回答を示した。

【表7】反構成式のインタビュー回答

学生 No.	Q1:前期の授業の中で、readingの授業で学習した内容のうち、印象に残っていることを話してください。
1	新聞記事で朝日と読売とか新聞記事を比べて、それぞれ主張の仕方が違ったり、書き方が若干、セクハラ批判の仕方が違ったり。読解の授業は今までやったことがなかったので新鮮で自分のためになりました。
2	教科書にある最後の長文を、自分で考えて単語を当てはまるのが読解力がついたと思います。

3	どれくらいの範囲かわからないけど、fact/opinion。ひとつのテーマから区分していくこと。常日頃、ニュース、マスコミに関心があった。何に気をつけなければいけないのか、ちょうど同じテーマだった。意図が見えるかどうか。言葉遣い、いかにも事実いかにもオピニオンというのに注意する。例えば、これはこうだという単純な文でも前後で分脈で変わる。こちらが注意しないとわからない。本当に意図しているのならば分脈の組み方にポイントがある。
4	リーディングして行く上で、もともと自分に興味があって、詩織さんのことも知っていたので。読売の記事は日本の法律改善を称えるような内容だったので、こんなにも記事の内容が違うのかと衝撃でした。詩織さんのネットからの情報、インタビューとかが載っている。
5	新聞の女性差別の記事がとても印象に残っている。新スクラップを初めてした。できるか不安だったが、やって見たらそれほどわからない単語があまり無く、男性優位社会とかは知らなかったのですが、テイクがなくなったのが驚きでした。
6	読解の後、意見が本当かどうか。
7	新聞の記事が記憶に残っている。
8	Fact. opinion。新聞の内容を比較してメディアリタラシーを学習した。あの授業は去年も似たようなことをやったんですけど。最近いろんな情報が入ってくるので。それで先生の話した右翼左翼の話だったり。単語は知っていたけど、正直どっちがどっちという実態はどんなものか知らなかった。それを授業で教えてもらってクリアリになりました。
9	Me, too. の授業の時のが一番印象に残っている。なんとかかおりさんの記事。Me, too 運動で新聞によって言い方が違う、伝え方が違うのが印象に残りました。
10	教科書の漫画見たいのを暗記したのが印象に残っている。
11	新聞のいっぱいやったやつ。2名目、写真家を訴えて、セクハラのやつが一番印象に残っている。あの写真家を知っていて、世界的に有名な人で訴えられて、そんなことしていたんだと。
12	今までと違って新聞を読んで他社のと比較してどういう面から紹介しているか、日本語でもやっていなかった。比べると違うものが見つけられた。
13	一番印象に残っているのはセクハラを読解、ニュース。一つの新開しか見ない授業が多いので、3つの記事を比べたので印象に残っている。

学生 No.	Q2: 日本での Sexual harassment に関する3つの記事を読み比べましたが、それぞれの筆者の主張はどうでしたか？(違いはありましたか？)
1	朝日新聞はその被害者の女性の味方というか、そっち側に立って相手の加害者の人を批判する感じがありました。読売は朝日ほど深く掘り下げずに、浅く冷静っていうかさらって取り上げていた。BBC は日本の現状、世界と比べて日本はまだまだ女性のセクハラに対する意識が世界と比べてまだまだというのを取り上げていた。個人的には一番 BBC の記事が日本の現実を突きつけられる感じがして、日本て、世界から見たらこんな感じなんだと思いました。
2	朝日だったらすごい批判的で、ちょっと自分のには筆者の言っていることが理解できなかったと思う。読売は肯定的で、事件の内容が批判的でないので読みやすかった。BBC は3つの中だったら写真もあったし、事件の内容のことだけあったので、他の国の新聞だけとわかりやすかった。
3	1つは、BBC はステレオタイプかもしれないが、イギリス人は深く突っ込んでいく。朝日、実際は AP の記事。実際はいろいろな視点から書いている。読売、時事から引用。NEWS Japan だったかな。読売は私がステレオタイプを持っていて、構えて読むので。
4	どれがどれだったか細かくは覚えていないですけど、結構違ったように感じた。詩織さんに対して彼女に落ち度があったような書き方をしていたような気もするし、詩織さんに寄り添った記事もあった気がします。BBC が寄り添っていた記事だったような。
5	右翼、左翼。賛成反対の意見を感じた。今までうっすらとしか知らなかった。会社の意見が違っていて驚いた。3つの記事の主張が違ってた。
6	2つの記事は深く被害者の話を掘り下げている。それに対して政治家が対応している内容を書いている。
7	去年も同じような授業をしたんですけど、去年ほど差はなかった。筆者ごとの論点は、大きくずれていなかった。今年はさほど差がなかった。3つとも主張に関してはあまり大きな差はなかった。去年はオスプレイの記事で賛否がはっきり別れていた。

8	違いはあった。さっきの通り右翼左翼で保守的か改革的か。現政権に対してどういう考えを持っているか。新聞会社の全体的な理念として、政権を批判する会社と批判したくない会社と。逆に政権に噛みつきたい理念だったり。朝日は改革？BBCは改革に賛成みたいな感じで、読売は政権寄り。
9	全然違ったと思います。新聞によっては、Me, too. 運動を赤裸々に伝えて、女性にもっと権利を与えろ、というのもあったし、政府を守っているところあって全然違う。
10	BBCは、日本が暗黙の了解みたいのを言っていて、朝日は筆者の意見が反映されていて、読売は小さくまとまっている。
11	みんなやっちゃいけないことだと熱が入って伝わるけど、3つとも人ごとなので、解決策がない。もっと寄り添った記事を書いた方がいい。表現とかは全然違うけど、言いたいことは同じかな。
12	ある新聞だと被害者側から被害者に寄り添って加害者を批判している。もう一つは日本政府がどう頑張っているか、被害者をかき消すわけじゃないけど、右翼的な感じ。
13	結構違いはあった。BBCは日本のではないですね。外国の方が個人の話に焦点を合わせて、日本は政治に比べて、どうの、世論はどうのという記事。外国は具体例をあげ個人の話をしていく。

学生 No.	Q3: 3つの記事の論調はどうでしたか？
1	朝日新聞の論調は結構厳しい感じだった。ちょっとかなり批判している、その加害者に対して。読売はあっさりとして朝日の記事よりもとても内容が薄かったような気がしました。BBCは批判的というか、セクハラ問題を改善しなくちゃいけないよね、と批判でもなく間に立っている気がしました。
2	朝日は批判的で、他の記事と比べると否定的な言葉が多かった。読売は否定することもなく、こういうことがあったからこうでしたと、一言で言うなら肯定的。BBCは起こったことをひたすら言っていたから、批判的とか肯定的でもなくて、あったことだけ。
3	批判的というのはAPも読売もより深めてより広い範囲にそれぞれ違う。読者によっていろいろでしょう。読売は他の2つの記事と視点がちょっと違う。
4	全く同じではなくて。一部は批判的だったし、一部は日本の法律改正を賞賛するような中身だった。
5	論調はあまり考えず、中身を読み取ることに集中した。
6	強く訴えかけてくる論調。それに対してさらっと表現しているもの。
7	事実だけ述べている記事と、被害者に寄り添っているような2種類の論調のがあり、寄り添っているそっちの方が入り込み易かった。
8	論調。言い回しですね。批判的なところに関して違っていたような、違っていたような気がする。うまく言葉にできませんが。
9	論調。BBCは意見というよりはなんか事実について述べているのかと思いました。日本の新聞は、日本の出来事だからこそ事実をうまく変えるというか。どこだっけ、朝日？とか丸く隠す。本当のことは言わず、こういう時事実があったけど、とか。
10	BBCが社会的な感じ。朝日は自分の意見がきつい感じ。読売の論調は社会的な感じで、BBCと同じみたいに感じた。
11	特に大きな違いはなかったかな。
12	今のと重なるけど、論調も二極化で、極端に別れた。中立っぽいのはなかった。BBCが被害者に寄り添い、朝日も被害者を紹介して、読売は安倍政権がこんなにやっているんだよという。
13	論調は、うーん記事の調子ですね。さっきとかぶる部分がある。読売が、イメージかもしれないが、読売は政治的影響が大きいのかな。安倍政権はどうだとか。他の2つ、BBCと朝日は似ている。

学生 No.	Q4: 3つの記事のタイトルはどうでしたか？
1	違いがあったと思います。
2	朝日と読売は記事の内容を要約していて、BBCはそうでもなかった。
3	タイトルが内容の違いを示していた。
4	正直覚えていません。

5	違う。話の方向性がタイトルに出ていた。
6	視点が違うようだった。
7	正直覚えてないんですけど、Me, too. の記事は興味が惹かれるようなタイトルで。若者向けだったと思う。
8	ありましたね。タイトルは被害者の立場に立つのか、あるいは被害者の立場に立たずに、単に法律が変わるよ、という風にテーマを置くか。切り口が違う。
9	タイトルは全然違った。
10	目が引くように全部されているのかな。
11	Me, too. BBC は運動をタイトルにしているわかりやすく、入りやすい。朝日、読売はタイトルを見て難しそうだった。
12	全部主題を言っていてわかりやすい。読売はそこまで出ていなかった。
13	朝日新聞は記事の内容の要約がすぐわかる。BBC は What happened から始まるので、読まないといけない。読売も結果、内容の中身が載っている。

学生 No.	Q 5: それぞれの段落に含まれている Main Sentence と supporting sentences の関係性について、覚えていることを話してください。
1	BBC はメインセンテンスが初めの方に書いてあった様な。でも内容は曖昧であまり覚えていないけど。メインを付け足しする様な文章がサポーティングセンテンスにあったなと思います。
2	朝日はメインセンテンスがなんだろう、ところどころにあって、グループでわかれてやった時に、自分はどこにあるのかわからなくて難しかった。読売は比較的にわかりやすい。まず事件の内容をどんと書いていて。BBC の記事は最初にメインセンテンスがあると聞いたので、分かりやすかった。
3	詳しくは覚えていない。自分で解釈したので。質問にちゃんと答えられない。メインとサポートテンスの関係性は、メインにジャーナリストの言い分がダイレクトに書いてある。その補足が続いていた。
4	BBC の記事ではある程度意見の後に論調を補助するような役割があったような気がする。
5	A3の記事は段落ごとに違う女性の情報があつた。段落を意識して読んだ。A4の記事は国全体のこういう法律が決まったよ、という感じ。メインセンテンスは二度読みしてわからないところの単語を調べた。サポートセンテンスはさっと読んだ。
6	段落の頭がメイン部分。
7	Me, too. は最初の方。他は真ん中だったかな。筆者の主張がきて evidence がその後にくる。
8	えっと、2番目によんだやつ。朝日新聞？の次に読んだやつ、ですかね。メインテーマが改革に意欲的だ、みたいな文が一番上に書いてあったんですけど。これこれこういうことがあったので、改革する。被害者の側面は見えていなかった。文章にしていなかった。改革するみたいだよ、そこだけを切り抜いている感があったのかな。
9	一番印象に残っているのはどちらも BBC の新聞で、メインセンテンスで日本の女性が声をあげ始めた。今までは何もなかったけど、始まってきたよ、ってところで。サポーティングセンテンスは BBC の記事の一番印象に残っているのは、T シャツの人の話で、最終的に男の人がお給料も出さなかった、ってところが。セクハラ的な写真を撮っただけでもひどいの、そんなひどいことまで世の中で起きているのかと。中々、メインセンテンスとサポーティングのセンテンスの違いをうまく見分けられなかったけど、その中でも印象に残ったのは、BBC のかおりさん？詩織さん？の記事の、結構段落でほんとに大事なことがあった、のが印象に残っている。
10	BBC の #Me, too の意味を知らなくて me, too 同意するしか知らなかった。一番筆者が言いたいことがメインセンテンスで、その補足でサポートセンテンスが書かれている。
11	メインセンテンスがそもそもどこかわかりにくかった。BBC は太字がメインかと思ったら違っていた。どれを訴えたかったかわかりにくい記事に対する文句になっちゃうけど。
12	BBC がメインが主題を表していて、被害者への敬意を表して、内容を掴むのがわかりやすい。
13	段落、BBC のやつが印象に残っているのは事例が多いから。サポーティングの例が多い。

学生 No.	Q6: Media Literacy について授業を受ける前に知っていたことはありますか？
1	なかったです。
2	なかったと思う。
3	経験的にマスコミは信じたくない。時々新聞を比べて読む。メディアリタラシーのことは知らなかったけど、構えて読んでいた。事件の当事者に何回かあったことがある。刑事事件とかではなく、例えば、なんか大会の天気について。大勢にインタビューしているが、私と私の周りの意見と感情と、私たちが正しいと思うことと新聞のタイトルに隔たりがあった。ということは他の事件にも隔たりが多分あるのだろう。
4	メディアリタラシーは小学校から高校の授業の中で何回か出ていたので知っていました。一番は自分が道徳に反したことを書くとか傷つく人があるので。ただ、情報リタラシーについては、そんなに学習しなかった。
5	大学には入ってから、教授から学習した。小学校の子供に教えるとき、発進するときの注意点、公表するとき、twitterとかで機密情報は出さない。
6	情報が全部正しいわけではないことと、記事を比較して読むことを英語学校と高校で勉強したことがある。
7	新聞の会社によって記事の書き方が違うということは知っていた。何寄りで書いてあるとか。詳しいことは知らなかったですけど。
8	日本語で言い回しの時の情報の取捨選択。それに発展して、受け取って、出す時にも読み書きする時にもしっかり取捨選択することなのかな、とぼんやりと知っていた。
9	よくわからなかったです。
10	言葉だけで意味は全然知らなかった。
11	メディアリタラシーの単語だけは知っていた。
12	あんまり深くは知っていなくて、言葉も知らなかった。
13	高校でメディアリタラシーは一回聞いたことがあって、英語ではなく社会の情報を読み解く時に、ネットの情報を全部信じちゃダメだよ。

学生 No.	Q7: Media Literacy について前期の授業で学習したことを教えてください。
1	そのメディアと新聞にも右翼左翼に分かれてて、その中間に属しているメディアもあって。で、自分はどちらかというところあまり批判的に見ることもなく、あ、そうなんだと思っていた。でも SNS では批判的に言っている人もいるんだと。いろんな考えが社会にあるのだと。鵜呑みにしちゃいけないし自分の考えを相手に言えるような人間にならなくちゃいけないな、と。
2	今まで新聞で英語の授業をすることがなかったので、国によって情報の出し方が違うかったりするので、自分でも新聞の見方が変わった。今まではメインセンテンスも考えずに、だーっと読んでいて、授業の後メインセンテンス、サポーティングセンテンスとか考えながら読んで行くようになった。朝日は文章が長くて、その文詳しいのはわかるんですけど、後半になると前半の方が覚えていなくて難しいなと思いました。BBC は写真とか生かして、読む側が読みやすくしていた。朝日は写真がなかった、かな。
3	メディアリタラシーに対して、みなさんと討論したのが私には意味があった。会社での議論はあるけど、メディアリタラシーについて討論するのは新鮮だった。学問かどうかかわからないけど、まあ、学問なんでしょうね。身につけるべきことを知識として手法としてあると学んだことが良かった。
4	一番は詩織さんの記事が衝撃。自分では知っていたつもりだったんですけど、3つの新聞を読み比べたことがなかったので、まだまだ日本の女性の立場が弱いと気づいたし。今までより深く、日本の女性の立場がよわくこんなにひどいものだと認識した。
5	情報の選択をすることを学習した。
6	新聞の出版社が右翼寄りかどうかを前提にすると読みやすいようだ。
7	メディアリタラシーは今まで記事を読み比べとか無かったので、実際記事を読み比べてよくわかった。去年オスプレイは賛成、反対がはっきり分かれていた。同じようなタイトルだけではわからなかったけど、読んだらしっかり分かれていた。

8	個人的には右翼左翼の話が印象がすごく大きかったかな。一つの新聞だけ取ってる人が、その新聞だけ読んでいると、自然にそっちの意見に寄っていくのかな。
9	自分で情報を選別しなくてはいけないことです。
10	セクハラのが印象的。偏った意見にならないようにしないといけない。政府と読売が繋がっていると全面的に悪く書けない。朝日と読売に違いはある。読売に情報が入っていた時報が詳しいのかと思ったけど、詳しく書けない。
11	BBC って海外の記事の方が、言い方が遠回しじゃなくて、朝日読売はいこのことを伝えるのにこんなイン長く使っている。日本のメディアの遠回しにいろんなことを隠しているんだろうな。読売の方がより政治を絡めてくるな。読売も朝日も書き方は同じだけど朝日は社会のこと、読売は政治の用語を“小委員会”とか。知っていけど英語版でも政治的なんだな。
12	去年も共謀罪についてやったんですけど、セクハラもんは女子大だし、自分にとって印象深い。新聞、TV、ネットの媒体を通して、朝日はセクハラの大要っていうか、経緯を微妙に中立っぽくもあるけど、サポーターセンテンスが多い。
13	比べて、全然ちがう。捉え方が全然違う。

学生 No.	Q8: Fact or Opinion に関するワークシートの内容で、印象に残っていることを話してください。
1	鶏のストーリーが個人的に面白くて。これ本当に fact か opinion か自分で宿題でできなくて。クリティカルシンキング？簡単に fact と受け止めては行けないと。証拠となるものを、ネット、まあネットとかも正しくないものもあるので、自分たちで決めるけど。最終的に、自分たちで授業でやりましたが、決めていかないと行けない。
2	自分で fact/opinion を決めるのはいいワークシートだったし、どこが fact かをグループで話して、記事の中から考えるのが良かった。根拠を探して決めなくちゃいけない。ネットの情報が正しいわけではないので、そこからもっと根拠を見つけることが大事だと思います。
3	Fact/opinion はどういう証拠で、それは本当なのか、裏とか、発信元の信用性とか。少なくとも鵜呑みにはしたくない。自分で考え、整理して、関係性を整理する。国の事情で、日本はメディアが弱い。彼らもサラリーマンでジャーナリストとしての自覚があるのかどうか。一緒に仕事をしたこともあるから悪く言いたくないけど、彼らはサラリーマンなんですよ。給料、ボーナスもあるし(笑)。新聞記事は一つの物事をこんなにも広く違って捉えるのかと、多様性を感じた。
4	自分の中では fact だと思っていたが、実は opinion だったりして、わかった後でも、「これって fact じゃないの？」と思ったり、自分で取捨選択ができていないと思った。
5	Fact だと思ったら実は opinion だというのが3文位あって、まんまと乗せられたな。ペアでやっても証拠として捉えていいのか迷った。Because とか現実の固有名詞が大事だと。
6	論調が難しい。比較がむずかしかった。
7	しっかり調べないと難しい。下は evidence をしっかり調べないとわからない。
8	純粹に自分はニュースを見ていなかったな、というのと、やっぱりそんなに差があったんだ。国に都合の悪いニュースが出たとき、それよりも注目度の高い他のニュースを出して、なかったことにする。全体を見なくては行けないんだ、と。Fact と opinion。事実はわかりやすいというか、曲げられないことが多いので。読んでいて、あ、これは事実だなと、読んでわかりやすい。オピニオンを判別するときに、その言い回しがすごく、「こっちが正しい」と書いてくる記事とかもあるので、その辺見極めが難しい。
9	結構 fact と opinion もギリギリ迷ったのだけど、「私はこの教室で英語を習っています。」とか、なんて言ったらいいんだろう、本当の事実の事実をみんなで見つけられたのが印象に残っています。
10	全員がそうだと思っても、根拠がないとオピニオン。その根拠が確かじゃなければ、ネットで調べて出て来ても正しくはならない。
11	「先生は綺麗です」みたいな文をみんな fact だと言った。日本人の特性というか、事実だよって言っちゃうみたいな。Fact, レポートもそうだけど根拠となるものをネットではなく文献から少なくとも2つ含める。ネットだと自分の意見も含まれている。
12	ニュース番組で、他の芸能人が言ったことを引用して、実際に知っている番組だったので、fact, opinion がわかりやすかった。言い切っている文か、クエッションで終わっている文かが大事。
13	見極めが大変。私は fact がわかりやすいのかと思ってたけど、オピニオンだった。一見 fact だけど、見極めが難しい。Fact の見極めは第3者側から確認できるか、どこに行けばわかるっていうのが fact。

学生 No.	Q9: 今後、日本語そして英語で書かれている本、雑誌、ネット(SNSを含む)を読むとき、TV、ラジオなどの媒体を通じて情報を得る際、どのような態度でそれらの情報を受け取ろうと考えますか？
1	SNSは流れてくる情報に流されないこと。あと、なんか今インターネットでなんでも見れる、スマホとか。新聞TVもいろんなチャンネルを見て、授業でやったので、ちょっとでもいろいろ見ていこうと思います。
2	例えばSNSだったら、それこそfactなのかかわからないし、人それぞれ価値観が違うから。人の意見も受け取って、TVとかの言っていることも鵜呑みにせず、ちゃんと自分の意見と人の意見を大事にするのが必要だと思います。
3	メディアの枠組みで考えれば、複数のチャンネルで見たい。これが大事な要素。言語の違いも大きいのだろう。スペイン語でやりとりもしているので、言葉の成り立ちが違うので、ダイレクトに表現する。抽象的に表現する。言語の違いを楽しんでいきたい。
4	自分は中立的な立場だと思っているので、右翼的な記事に対しての反応、書き込みがされているじゃないですか。他人の意見に左右されないで行きたいなと思います。
5	1回目の時はバーっと読む。その後に右翼、左翼とか、twitterも考えながら読む。作者が何を言いたいのか、大事なセンテンス、fact, opinionとか考えながら読む。
6	筆者の立場が誰を視点としているのかわかってから読む。
7	一個の会社、場所だけを鵜呑みにせず、比べて見るのが大事。
8	自分SNSをやっていることもあって、よくtwitterとかで情報が回ってきたときに、それっぽいことが書いてあっても、イマイチ、どこ情報なのか、つまりソースが書いてなかったり引用元がなかったりすると、それが意見ということもあるので、それに騙されたくないで。まずどこ情報なのかをまずしっかり確認することが一点と。いろんな会社がいっぱい思惑で書いていることを念頭に置いて。できればこの新聞だけじゃなくて、他の新聞も読み比べがいいんだけど、時間なりに難しいので。できる限りあらゆる角度から見てみるのが一番大事かな、と思いました。
9	やっぱりいろいろな新聞を読んで、新聞毎に伝え方が違うことがわかったので、一つの情報だけで自分の考えとして受け取らないで、その一つのことに対して他の新聞とか他の情報を得てから、こういうことなんだな、と事実を受け止めたり、新聞とかの意見を自分の身に付けたい、と思います。
10	全部鵜呑みにしないようにするのと、なんとか研究会から出ているのであれば、信ぴょう性があるのかな。
11	今までもそうで、これからもそうだと思うけど全て嘘だと捉えて、聞いた上でTVのパラエティでも、2回目に聞いたら本当だと思うことにしている。家に新聞がたくさんあって、身内にも新聞記者がいて、10個上のお姉ちゃんみたいな人がいて、進学の時もいい加減なことを答えずに、調べてから話すように言われた。
12	インターネットには事実ばかりじゃないのは知っているんだけど、信ぴょう性を見るためにTV新聞でも本当にそうなのか、と考えながら。
13	この授業で意見が違うのがわかったので、時間が一つの意見だけではなく調べるのが大事。序盤に書いてあることがわかったんで、時間がないときははじめを読む。

学生 No.	Q10: 英文記事を読むときはどこから読みはじますか？
1	第一段落、メインアイディアが英語は初めにあるのがわかった。次の段落にも目を向ける。その後全部読む。
2	メインセンテンスは初めに書いてあることが多いので、始めから読む。あとはサポートセンテンスが下に続いているので下を読む。
3	今までタイトルをまず読んで、その中から読みたいものを選ぶようにしてきたので、今後も続けます。興味があるものをピックアップし、全体を読んでいきたい。
4	タイトル。その後は一行目から読みます。写真、キャプションは最初、あるいは一段落読み終わった頃に見ると思います。
5	題名と、日本の新聞だと見出しの部分。最初と終わりを大切に読む。
6	まずはタイトルから読み始め、各段落の一番目。
7	タイトルから読む。上から読む。

8	メインテーマが書いてあるところ。やっぱり一番上から読む。次にサポーターセンテンス。で、さらっと、最後にどうまとめているか、着地点を見て、あと中身を見ていくのがいいのかなと思いました。
9	タイトルだと思います。そのあとは読んでいくうちにどこがメインセンテンスかを汲み取って、その後でサポートセンテンスを考えるのがいいと思います。
10	タイトルと結論。結論はタイトルと同じような文の近くのあたり。真ん中から終わりにかけて。
11	タイトル、太字があればそこ。太字の周り。最後に細字の段落を読む。
12	タイトル、次は一番上の部分。
13	タイトルを見て、それで写真とかを見て、一番上の文から読む。

学生 No.	Q11: 各記事の段落の構造について印象に残っていることを話してください。
1	その英文記事は始めにメインが多く、その付け足しが下に続く。
2	朝日は段落の数が多くて、段落毎にメインがあって、それが繰り返されている。
3	タイトル、そして最初にインパクトがあると思う。本文の最初が分からなければわからないかも。
4	さっきも言ったんですけど、BBC はそう言うのが強かった気がする。
5	さっき話した通り、各女性の、被害者の女性毎に段落ごとに2, 3人くらいについて書かれてあった段落の構成がわかりやすかったですし、あと別な記事では、政府の議員とか、管理職の方たち、安倍総理が何をしたか、なんていう男の人か名前を忘れちゃいましたが、管理職の人が今後どうしていくことになったか、という構成が記憶に残っています。
6	一番最後に大事なことが書いてある。
7	記事によって別れるけど最初か最後。やっぱり最後にどんと持ってくるかな。
8	段落の構造。一番最初は、こういう事実があったと伝える段落。何が言いたいのかを伝えている段落。一段落目は大事。
9	段落の構造。何新聞かは忘れてしまったんですけど、政府を擁護した新聞だったと思う。政府のことにについて広げて言っている、記事の内容を。どちらかといえば最初の方に大事なことが載っている。序論があって一番言いたいことが始めの方に載っている。
10	最初の段落に擁護の説明があって、その後説明。自分の意見は後ろに続く。
11	日本の記事は言いたいことが、言い切りが最初に来ている。海外の記事は真ん中に言いたいことを書いてある。タイトルに多くを語らず、読んでいかないとわからないので、面白いと思う。
12	メインセンテンスが割と短い気がして、サポートセンテンスが何個も続いている。
13	一番大事ことは上の方にあって、その他の事例が後にやってくる。

学生 No.	Q12: 今後もし、自分と意見の合わない人と話をするとき、どのような態度で話をしますか？
1	いろんな考えを持っている人が前提なんだと考えてから、相手の意見を批判的ではなくて、とりあえず受け止め、自分の考えを伝える。一方的に押し付けるのもダメ出し、相手をお話し合いをして、相手と納得するまで話をするのが、解決法かなと思います。
2	まずは他の意見を聞いて、自分もそれに合わせることをしないで、自分の意見を言って。他の人がこう言ったから、じゃなくて、自分の意見をしっかり言うべきだと思います。自分たちの意見を伝え合って、あとは多数決かな。
3	非常に大事なことで。完全に一致は気まずい。向上がない。対立した方が多分成長性が良い。チャンスがある。理由を述べたら、元になるもののデータを見る。将来変化するものもあるので。いろんな視点で意見を元に膨らませていろんな方法を変化させ、意見を元に膨らませたい。
4	自分と意見が違う人がいたら、「ああそうなんですな」と同意した後で、自分の意見を伝えたい。うまくまとめようと模索して、うまくいかなかったら、相手の意見に譲るかもしれません。

5	その時は納得いかないと思う。ノートにとって記録にとる。合わない人の意見も大事。今後の人生に大事になるので記録にとっておく。なぜそう考えたのか理由を聞いて、本読んだとか背景を聞く。結果を出さなくちゃいけない時はとことん話し合う。結果を出さなくてもいい時はそのままとめて、今後の糧にする。
6	否定はしないで、その人の考えを含めた上で自分の考えを言えたら良い。
7	自分の意見が正しいとは決められないので、そこは受け身形で。その人の意見を聞いて、でも自分の意見は大事なので。自分で噛みくだいて、なぜこの人はそう思うのか考える。
8	意見が合わないというのはいろいろあると思うので。自分が思っている意見で、考えが浮かばないのかもしれないし、でも相手の意見に自分が合わないのは自分が聞いてないからわからないのかもしれないから。しっかり聞いてから、自分の意見を言って。どちらがいいのかしっかり吟味して、もし浮かばないのであれば後から考えていけたらいいのかな、と。
9	まず相手の意見を聞いてから、その意見に対して自分とは違う点を述べて、じゃあどうまとめるかを見つける。相手の意見を聞くことだと思います。
10	まず違う意見の人を理解してから自分の意見を話したい。
11	昔から口喧嘩は負けない。反対意見を言われると自分の意見に合うように相手を折らせちゃう。意見が合わない人がいたら、自分の知識を全部使って折らせちゃうので、これからは相手の話をまず聞いてから、自分の意見をいう。まず共通の点を見つけて自分の深い意見を言うと思う。
12	まずその人の意見が違っていても、ちゃんと聞いてから自分の意見を言う。
13	自分の意見と違うからと否定せず、まず聞いて真っ向から否定せず、とりあえず相手の考えを受け入れることを大事にする。

8. 結論

前期の15回目の授業で調査群の学生全員に書いてもらった自由記述と、前期終了後13人への反構成式インタビューの結果からわかったことは、まず、高校までに受けた英語読解授業が、大学受験準備のために単語と文法に重きを置き、先生の解説を聞きながら全訳をノートに記入するというスタイルであったと16名の学生が述べていたことである。それと比べて今回、英語の長文読解の課題に対して筆者の意図や目的、使用しているタイトルのキーワードや表現に着目させた教授法を用いた授業を受けた学生は、英語記事の構成に着目することによって、英文長文は全てを訳さなくとも、「タイトル」「筆者の主張」「論調」に注視すれば記事の書かれた目的を理解することができることを学習した。

今回の授業の実践はこれまでの研究と違って、3つの新聞社が同じテーマを扱いながら異なるfactを選択し、異なる視点に焦点を当てていた為、それが「筆者の主張」「論調」に於いて二極に分かれて現れていた。そしてその理由としてはメディアの政治的背景の違いがある事を理解した。数多いメディアリタラシーの分野の中で、学生はこの部分のメディアリタラシーを習得したと言える。同時に、社会問題を取り上げた3つの新聞記事を読み比べ各紙の視点の違いに注目する際、factとopinionの違いも分析しながら、先行的に著者の意図を枠組みとして理解させてから英文読解を行わせる授業実践により、学生が一つの記事に書いてあることを全て事実と鵜呑みにせず、物事を多角的な態度で理解しようというクリティカルリーディングのスキルを習得した、と言えるのではないだろうか。また日本語と違って、英文ではメインアイデアが記事の始めの部分に書いてあること、英文段落内のメインセンテンスの下にサポーティングセンテンスが続くという英文の構造に

ついて理解が深まったことが明らかになった。

このことから、多様な文脈が混合する環境の中では、英文全訳に重きをおく従来のスタイルではなく、タイトル、筆者の主張、主張をサポートしている部分、論調に着目させて、先行的に著者の意図を枠組みとして理解させてから英文読解を行わせる授業が、批判的に英文を読むスキルを習得するのに効果的であることがわかった。こうして目的に応じた情報を見出し、主体的に判断をしながら他者との議論を通じて課題を解決していく方法が、英文読解において効果が認められると考えられる。

9. 考察

このように本研究では、調査群の学生に、異なる立場の英字新聞のそれぞれの立場や背景を踏まえ、かつ新聞記事の構成を意識させて読解させる指導を行った。

3つの新聞はセクハラ被害にあった女性達に視点を置いている2紙 The Asahi Shimbun と BBC News と、セクハラスキャンダル後の政府側の対応に焦点を当てている The Japan News とに分かれた。セクハラ被害者女性達の視点にたち、日本社会全体から見たセクハラ問題を捉えて論調をまとめていた2紙だが、違いは、国内の新聞社である The Asahi Shimbun は、日本社会が男性優位だからセクハラ被害に遭った声をあげた女性達が逆に非難されると言う論調で、イギリスの新聞社である BBC News は、日本社会で生きる日本人を「No と言わず苦難を受け止めそれに耐える」と表現し、ゆえにセクハラ被害に対する法的な保護もなく、攻撃されやすい立場にいる若い女性達という論調という点であった。The Japan News は、前紙2紙とは全く違った fact である、上級官僚が受けることになったセクハラ対策のトレーニングに関連した事柄を選択し、記事の論調も、安倍首相のリーダーシップにより小委員会でその対策が決められたと強調していた。

ゆえに、同じテーマについて書かれた記事でも、メディアによって視点がかなり異なることを学習した学生らは、今後メディアを利用する場合、一つだけの媒体を調べるのではなく、複数のメディアを調べ比較する必要があることを学習した。同じトピックについて書かれている英文記事でも、Fact の選択の違い・fact の捉え方の違いが生じ視点が異なることによって、それが「筆者の主張」「論調」にどう反映するかを見極めなければならない。あるいは同じ視点に立って記事を書いている、表現方法の違いがどのように「筆者の主張」「論調」に影響するのかをも理解する必要がある。

このように学生のクリティカルリーディングの理解が深まった部分もある反面、学生の中には新聞の右寄り・左寄りの政治的イデオロギーを右翼・左翼と混同して答えていた人も何人か見受けられたので、今後は授業の中でその違いをより明確に説明しなければならない。また、インタビューに応じてくれた13人のうち、「筆者の主張」と「論調」を明確に回答できなかった学生も数名いたので、この2つの相違点については、ほとんどの学生に定着した段階ではないということが伺える。これも、今後の授業での改善点である。

このように意図したものとは異なる結果が出た項目もあるが、全体としては調査群の学生は、同じトピックでも fact の選択が違った3紙を読み比べし、「タイトルのキーワード」「筆者の主張」「主

張のサポート部分」「論調」に着目することによって、その英字記事の文章構成・メカニズムを学習することができ、各紙の視点が異なっていたため、それぞれの「論調」に大きな違いがあることを理解した。つまり英文読解における「背景となる知識」を得ることができたことによって、クリティカルリーディングスキルを得ることができたと考える。

10. 今後の課題

今回は、各新聞社の持つ「タイトルのキーワード」「筆者の主張」「主張をサポートしている部分」「論調」に着目し、授業後学生全員に自由記述で回答してもらい、13人の希望者にインタビューに答えてもらったが、今後は授業前後に行ったアンケート調査結果から因子分析を行い、質問紙の妥当性や信頼性を含めた尺度としての有用性を含めた研究を進める。現在、前期授業で得たアンケート結果をもとに、リーディングリテラシーを測るための尺度化を行なっている。

また同じトピックについて書かれている英文記事でも、視点が異なることによって fact の選択の違い・fact の捉え方の違いが生じ、それがどのように「筆者の主張」「論調」に影響するのか、あるいは同じ視点に立っていても表現方法の違いがどのように「筆者の主張」「論調」に影響するのか、といった点につき学生自らが探し出すことができるのか、といった研究を進めていきたい。

【註】

1. 藤崎さなえ(2016)「社会的背景の読み取りを基盤とした英語読解力向上のための教育方法」東北大学大学院教育学研究科『研究年報』第65集第1号 pp.19-33.
2. *Ibid.*,
3. Fujisaki, S. (2018) *Developing English Reading Comprehension Strategies for Japanese Universities: Shifting from Learning to Read to Reading to Learn*. 東北大学大学院教育学研究科『研究年報』第66集第2号 pp.113-128.
4. ここでの fact は記事の中に事実として残った、記事に書かれた事実的情報のことを示す。
5. <https://www.education.com/worksheet/article/identifying-fact-and-opinion/>
6. <http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201803010026.html>
7. <https://www.bbc.co.uk/news/world-asia-43721227>
8. <http://the-japan-news.com/article/0004507331>

【資料1】

Name: _____

Date: _____

IDENTIFYING FACT AND OPINION

☞ A **FACT** is a statement that is true and can be proven.

☞ An **OPINION** is a statement of belief. It tells what someone thinks or feels and can not always be proven true.

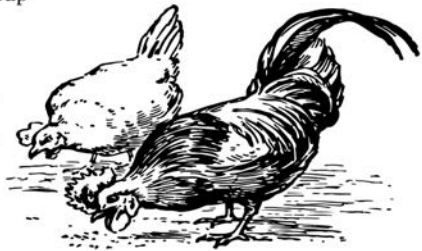
DIRECTIONS: Read each statement below. Write an F next to statements that are facts, and an O next to statements that are opinion.

- | | |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 1. Green is a beautiful color. _____ | 2. These bananas cost 19¢ per pound. _____ |
| 3. Kiwis are a good source of vitamin C. _____ | 4. Pickles are gross. _____ |
| 5. You should kick the ball to Sam. _____ | 6. Math is the most difficult subject. _____ |
| 7. The Bears lost by 3 points. _____ | 8. Orcas eat seals, sharks, and squid. _____ |
| 9. Pizza is on the menu for lunch today. _____ | 10. My team will definitely beat yours. _____ |

DIRECTIONS: As you read the passage below, highlight sentences or phrases that are facts and underline statements that reflect the author's opinion.

This summer, my family decided to start raising chickens. Chickens make great pets because they are really cute. They are sociable animals, so they like to live in groups. A group of hens is called a brood. When hens are healthy, they will lay eggs during spring, summer, and fall. But, when there is less sunlight, like in the winter, they stop laying eggs. Freshly laid eggs are the most delicious thing you'll ever try!

Even though they are fun pets, chickens are sometimes gross. For example, chicken manure is very stinky. A lot of people use old chicken manure to fertilize their gardens because it has a lot of nitrogen in it, which is good for plants. Our chickens eat disgusting things, like bugs. But they also eat grains, seeds, fruits, and vegetables. We buy chicken feed for \$19.99 at the pet store near my house. If you don't have a pet at home, you should try raising chickens too.



Developing, Implementing and Evaluating for Improving Critical Reading strategies for University students:

Focusing on Writers' Intentions, Evidence and Expressions

Sanae FUJISAKI

(Graduate Student, Graduate school of Education, Tohoku University)

This paper is aimed at developing, implementing and evaluating English reading comprehension strategies for improving English critical reading for university students by using English newspaper articles. Two preceding researches have been done by the author with three articles written by three different newspaper companies that were all focusing both on the same topic and the same points. Therefore, finding out the differences among the press comments was relatively straightforward. However, this time the research topic, which is about sexual harassment in Japan, is the same, but two of the articles focused on the female victims based on the imbedded problems in Japanese society, whereas the other paid attention solely to the government's new measures to start a new harassment training for senior officials after a big sexual harassment scandal by a top bureaucrat.

There were two types of evaluation methods used to seek how much the students improved their critical reading skills. One was a free style description evaluation. During the 15th class in the spring semester, all the training group students wrote their feedback about the course in general and differences between their previous English classes in junior/ high school and university, and this course. The other evaluation was done with oral interviews with 13 volunteering students after the semester by using a semi conducted method with 12 questions regarding reading the three newspaper articles. The questions mainly asked the differences, if any, in titles, writers' claims, press comments among the three articles, media literacy, facts/ opinions, and structures of English articles.

As a result, learners' critical reading awareness and attitude have improved among the group, particularly on media literacy, which in this research means different media's political ideology, writers' claims and press comments with facts or opinions. Providing the task-based activities that analyze different focus points of the same theme and having preceding worksheets with writers' intentions, evidence and expressions, this research attempts to offer a clear link between implementing critical reading classes and evaluating its result to train the learners to become a critical reader.

大学生のクリティカルリーディングを向上させる授業の開発・実践及びその評価

Key Words : Critical Reading, English Reading Ability, Media Literacy, Critical thinking